

第7章

環境保全啓発活動

第7章 環境保全・啓発活動

持続可能な社会を目指して

高度な経済成長と共に私たちのライフスタイルが変わり、便利さや物質の豊かさなど優先した結果から大量生産・大量消費・大量廃棄といった状況が生じています。これは地球温暖化や生物多様性といった地球規模の問題に繋がります。

自分たちの生活を見直すことが、地球規模の問題解決に役立ちます。自家用車の使用・冷暖房の温度設定・待機電力などに気をつける・・・日常生活のなかで出来ることを無理せず力まず行う・・・継続して行うことが大切です。持続可能な社会に向けて“持続は力なり”

本市では持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全活動・活動の啓発等を実施しました。

こどもエコクラブの支援や環境教室・かたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境フェスタなど市民との協働の取り組みを推進しました。また、19年度より運用している環境マネジメントシステム(環境自治体スタンダード:LAS-E)により市役所の事務事業からの環境負荷を低減するよう取り組みました。

1. 環境教育

環境にやさしいくらしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

(1) こどもエコクラブの支援

財)日本環境協会が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、クラブ間の交流や活動の支援、情報の提供等を行いました。また、「エコロジカルとれーにんぐ」や各クラブが実施する「エコロジカルあくしょん」の報告を受け、その活動内容を確認しアースシールを発行しました。

登録クラブ 5クラブ(平成24年3月時点)

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
スマイルエコクラブ	12人	7人
天の川クラブ	15人	3人
ひまわりエコクラブ	18人	7人
妙見坂小学校エコクラブ	13人	2人
たんぽぽエコクラブ	12人	7人

交野市こどもエコクラブ交流会

「夏休み“おがわ”の生き物観察会」

全国水生生物調査を兼ねて、身近な自然とふれあうことで、環境問題への関心を高めるとともに広く水環境保全の普及啓発を図ることを目的としました。

実施日：平成23年7月29日(金)

場 所：くろんど園地 尺治川

参加者：5名(サポーター含む)

(2) 夏休み環境教室

「4市リサイクルプラザ施設見学」

家庭から出るプラスチック製容器類がどのように処理されているのか学び、身近なゴミ問題や暮らし

に役立つエコロジーのことなどを学習してもらうことを目的に、4市リサイクルプラザ施設見学と新聞紙を利用したエコバッグの作成を行いました。

実施日：平成23年8月24日（水）

場 所：北河内4市リサイクルプラザ

(3)かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民が気づき、行動して頂けるよう啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を4回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園の協力のもと、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

第1回 「セミの大変身」

日 時：平成23年7月21日（土）18:00 から

講 師：龍谷大学 講師 谷垣 岳人 氏

受講者数：71名

第2回 「森の中でCO₂を追いかけよう」

日 時：平成23年8月20日（土）10:00 から

講 師：大阪市立大学 講師 植松 千代美 氏

受講者数：8名

第3回 「植物園でクールスポットを探そう」

日 時：平成23年9月3日（土）13:00 から

講 師：大阪市立大学 講師 鍋島 美奈子 氏

台風接近に伴い、中止

第4回 「スパイダー・ウォッチング」

日 時：平成23年10月22日（土）10:00 から

講 師：元追手門学院大学 教授 西川 喜朗 氏

受講者数：16名

第5回 「どんぐりを通して学ぶ、樹木のいろいろ」

日 時：平成23年11月12日（土）10:00 から

講 師：大阪市立大学 准教授 名波 哲 氏

受講者数：45名



2. 市民との協働の推進

(1)かたの環境ネットワーク

自然環境・暮らしの環境について活躍をする個人や団体が集まり、官・民相互の交流と支援・連携を深め、交野の環境保全活動をより活性化することを目的に平成17年5月に13団体と1個人によって発足しました。毎月1回の定例会を中心に、団体間の情報交流や文化祭で環境保全をPRされています。

(2)環境フェスタin交野2012の開催

テーマ「未来につなごう ころと笑顔」として私たちの暮らしの中から様々な環境を考え、地球環境問題、身近なゴミ問題、里地・里山保全など自然環境問題等について、環境フェスタの開催により広く市民に啓蒙・啓発し、また団体間の交流をはかり、地域からの行動を喚起することを目的とし、市民・団体・事業者・行政が一体となり実行委員会形式により開催しました。

日 時：平成24年3月4日（日）

場 所：総合体育施設

来場者数：約8,600名

3. 環境基本計画

交野市が「環境にやさしいまち」、「環境自治体」となるため、平成22年度より引き続き「環境にやさしいまち交野推進事業」を実施し、環境基本計画を策定しました。この計画は、目指す将来像（ビジョン）とビジョンを実現するために4つの分野の具体的プロジェクトを定めています。

(1) 環境基本計画概要

総合ビジョン：市民一人ひとりが輝く「みんなのかたの」は美しく・やさしく・たのしい環境のまち

分野	分野別ビジョン	プロジェクト
自然環境保全	人々が憩う豊かな自然がある	・里山を知ろう・里山大好き ・実践！里山保全活動 ・山の持ち主と活動団体の縁結び ・生きものいっぱい！豊かな川づくり
エコ生活	魅力のある交野 ろじん エコ良人の活躍するまち	・生ごみを堆肥化しよう ・とかいなかライフプラザ ・やる気がでるエネルギーダイエット ・売ってエコ 買ってエコ ・めざせ！かたのエコ達人 ・「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル ・かたのエコ研修センターをつくろう！
エネルギー	自然の恵みを取りいれ、 かしこくエネルギーを使うまち	・そらいけ！ソーラーパネル ・星のまち エコドライブ ・風を活かしたまちづくり
まちづくり	住み続けたい環境へ・ やさしいまち交野	・とかいなかで農とふれあおう！ ・かたの満喫エコツアー ・自転車のマナー向上大作戦 ・自転車の似合うまち・かたの ・誰もが利用しやすいバスを走らそう！ まち ・地域ぐるみ エコで子育て・親育て

(2) 策定プロセス

第13回	平成23年 4月12日	・今後の議論を進めていく上での、分野わけ 「自然環境保全」、「エコ生活」、「エネルギー」、「まちづくり」
第14回 から 第17回	4月から6月	・テーマ別学習 ・討論で出された「地域の問題」の整理・抽出 ・課題設定
第18回 から 第27回	6月から11月	・課題達成のためのプロジェクト立案 第25回以降より並行して ・ビジョン検討 ・中間発表会の準備作業
第28回	11月14日	・中間発表会リハーサル ・中間発表会についての打合せ

中間 発表会	11月26日	場所：市役所別館 3階 中会議室
	12月4日	場所：ゆうゆうセンター 4階 多目的ホール
第29回 から 第31回	12月から 平成24年 1月	・中間発表会で出された意見を受けてプロジェクト精査 ・推進組織の検討
第32回	1月26日	・生駒市環境政策課、ECO-net 生駒への視察 推進会議設立に至る経緯や運営などについて質問、交流
第33回 から 第35回	2月から3月	・パブリックコメントを受けて、プロジェクトの精査 ・計画推進の準備(策定後のPR、優先共同プロジェクト及び推進組織の検討) ・計画書の作成
第36回	3月19日	・委員会から市長への計画書案の提出 ・1年半のふりかえり ・4月以降の準備

4. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定した LAS-E(Local Authority's Standard in Environment：環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19年6月より運用を開始しました。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修(集合、職場研修)の実施、環境情報の市民への公表など LAS-E の規格に沿った取り組みを進めました。また、LAS-E の特徴の一つでもある市民による監査が実施され、判定委員会による取組の合否判定を受けました。

(1) 監査及び判定

独自目標監査

実施日：平成23年6月1日

監査員 5名(市民2名、市職員1名、専門家1名)

共通実施項目監査

実施日：平成23年11月28日・29日

設問数 861問

対象部局 67部局(現場監査 36部局、書面監査 31部局)

個別監査 市長他34名

監査員 37名(市民20名、市職員15名、専門家2名)

判定

実施日：平成23年12月27日

LAS-E 実施項目判定(共通実施項目判定)

判定事務手続き・資料作成、判定委員会召集・開催、所見の発行等

結果：エコアクション部門(環境活動) 第1ステージ 適正

エコマネジメント部門(環境経営) 第1ステージ 適正

エコガバナンス部門(環境自治) 第1ステージ 適正

(2) 目標達成状況

LAS-E では取組を実施するだけでなく、数値目標を立てることも要求されています。平成23年度の目標並びに結果は次のようになりました。

平成 23 年度 独自目標取組結果一覧

項目	H23 結果	基準年値	削減率	目標	結果
電気使用量 (kWh)	5,888,221	5,853,854 (H21)	-0.6%	1.0%削減	×
ガソリン使用量 ()	57,576	55,596 (H21)	-3.6%	1.0%削減	×
軽油使用量 ()	68,784	70,946 (H21)	3.0%	1.0%削減	
灯油使用量 ()	181,026	184,689 (H21)	2.0%	1.0%削減	
LPG 使用量 (kg)	23,915	31,027 (H21)	22.9%	1.0%削減	
都市ガス使用量 (m ³)	44,920	40,395 (H21)	-11.2%	1.0%削減	×
水使用量 (m ³)	111,084	119,442 (H21)	7.0%	1.0%削減	
廃棄物の排出量 (袋)	42,421	39,957 (H22)	-6.2%	削減	×
コピー用紙 (購入量)(枚)	5,860,395	5,926,002 (H22)	1.1%	削減	
CO ₂ 換算温室効果ガス 排出量 (kg-CO ₂)	2,925,070	2,936,372 (H21)	0.4%	1.0%削減	×
職員研修の回数	4 回実施			年 2 回以上 開催	
実行責任者研修 の回数	6 回実施			年 2 回以上 開催	
環境に配慮した独自の 取組み (モアチャレンジ)	173 個 / 70 部署			各職場 1 つ 以上設定	
環境に関する 情報の提供	年 6 回以上 提供			年 6 回以上 提供	

5 . 他自治体などとの協力・交流

環境自治体会議

平成 18 年度から加入した環境自治体会議 (1992 年設立) は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第 19 回環境自治体会議「にいほま会議」に参加しました。

日 時 平成 23 年 5 月 25 日 (水) ~ 5 月 27 日 (金)

場 所 愛知県新居浜市

内 容 5 月 25 日 基調講演「別子銅山の開発と環境対策」

パネルディスカッション

テーマ「環境と産業が調和する持続可能な地域づくり」

パネリスト 全国の環境自治体会議会員自治体首長

5 月 26 日 10 のテーマごとに分科会を実施

5 月 27 日 分科会報告